モンテッソリー断想

内山憲尚

モンテッソリーの名前は学生の頃から聞いてはいたが、モンテッソリリーの教育を初めて知ったのは大正四年である。いつの頃のことなのか、モンテッソリリー教育法真髄という本の表題を読んだのがそれである。本の表題を読むと、モンテッソリリーの教育法は非常に難しいものであることがわかる。この本を読むと、モンテッソリリー教育法の理論を実践したものの一つに、彼女の「治 anakものを」教育の方法を知ることができる。
そこで、教育学、心理学等の研究を思い立ち、また、ローマ大学の哲学科に再び入学し、二年間実験心理学、教育倫理学の研究を続けた。また一九五〇年、ローマの貧民街建築改良協会がその附近に教育施設を作ることになったので、その依頼を受けて三才から七才までの子どもを収容して、児童の家（イタリア語：ファミリー）を一九六〇年に開校した。

イタリア各地にも児童の家が設立され、更に海外の和、英、独、米などにもモンテッソリ主義児童教育が次第に普及してきた。これをもってモンテッソリの教育法が世界的に広がるようになり、一九五年にはローマの指導講習会を開き、独自に児童教育に専念した。この一九五一年のローマで指導講習会を開いた。評価を怠っていたイタリアの教育もモンテッソリ教蔵実験学校を設置して、モンテッソリ教育の再認識とこれの幼小学校教育の革新を期することになった。

三、モンテッソリの教育

モンテッソリの教育は、児童の性善説を認め、その上に立てられ
<table>
<thead>
<tr>
<th>時間</th>
<th>内容</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>9:00</td>
<td>朝礼・展開会話</td>
</tr>
<tr>
<td>9:10</td>
<td>朝礼・展開会話</td>
</tr>
<tr>
<td>10:00</td>
<td>日常教習</td>
</tr>
<tr>
<td>10:50</td>
<td>自習</td>
</tr>
<tr>
<td>11:30</td>
<td>自習</td>
</tr>
<tr>
<td>12:00</td>
<td>自習</td>
</tr>
<tr>
<td>12:30</td>
<td>自習</td>
</tr>
<tr>
<td>13:00</td>
<td>自習</td>
</tr>
</tbody>
</table>

注：
1. 朝礼・展開会話は、朝礼の時間に房教練の指導を伴う。
2. 自習は、各コースの指導時間に合わせて行う。
3. 日常教習は、教科の指導にあたって行う。
インドのキショレ・ダル幼稚園

インド中にも三千三百四百から四千四百くらいである。しかし、長く筆者がカルカッタに着いたのが土曜日の午後で、翌日は日曜日なので、会長に会えないのは残念であった。

五、キショレ

・ダル学

国幼稚園

今回のインド旅行中、どこかでモントセリーナ・キショレ幼稚園を時期があったら、トナでうまく口が開かそうなので、あきそうだので予定

保育室

C保育室

B保育室

A

保育室

D

職員室

ベランダ

正門

表 通 びり

38
（写真・図版部）

（電子書籍）

（著者）

（出版社）